

# 生徒の背景にあるドラマまで しっかり見据え、誇りをもたせる

自立と自律。人任せにせず、誇りをもって自分の人生を生きる人を育てたい。  
矢口先生はその思いを胸に毎日、生徒に全力投球で接している。

矢口先生は、家庭の事情で志望大学をあきらめた経験がある。しかし「教師になれば、生徒の夢の手助けができる。それを自分の夢にできる」と思い、この道を選んだ。「高校の担任が、何も相談していないのに私をしっかり見ていてくれて、ここぞという時、さりげなく優しい言葉をかけてくれた。そのことは20年以上経っても大切な記憶として焼き付いています。私もそういう教師を今もなお目指しています」

生徒一人ひとりの後ろにあるドラマまで見据える。例えば、誰にも言えない悩みや家庭の事情などがそう。進路指導でもそこを見て、かつ三手先まで考えて話す。

「今はまじめな子が多いのですが、深く考える習慣がなく、進路も人任せだったり、安易に地元でいいと決めたり。そんな生徒たちに、積極的に物事をとらえて生きることのおもしろさ、ギリギリまで頑張り続けることのすばらしさを知ってほしい。人として誇りをもつことの大切さも。きっとそういうことを日々のなかで生徒に伝えるのが、教師の役割だと思います」

ただ、教師として怖いと思うのは発言

での失敗。「こちらが励ますつもりで言ったことが生徒の取り方次第で裏目に出てしまうことも。そうならないためにもやはり毎日、一人ひとりの生徒に心を配ることが大切だと肝に銘じています」

## 生徒の成長がうれしく楽しい。 それこそが教師の醍醐味

担当の数学の授業は、演習と講義を緩急織り交ぜながら進める。生徒が本当に理解するまで粘り強く付き合い、場合によっては自主的に補講も行う。「数学はじっくり考える時間も大切。表現力も身につかせたいので、できるだけ多く生徒に発言させます。教師が一生懸命であれば、生徒は必ず反応してくれる。それによってさらに成長してくれるのも素直にうれしい」

黒磯高校は「KUROISO PRIDE」をキャッチフレーズとする。生徒に「誇りをもってほしい」という願いを込めた言葉だが、「全職員がこの思いを共有し、指導にあっている。教師同士の仲の良さが本校の強みであり、それもまた私の誇りです」

イケてる  
センセー!!  
vol.14



取材・文/いのうえりえ

栃木・県立黒磯高校  
進路指導主事

矢口一也先生(42歳)

1972年栃木県生まれ。栃木・県立大田原高校卒。地元の宇都宮大学教育学部卒業後、栃木県の教員として県立足利高校に6年、県立矢板東高校8年勤務。2008年4月より県立黒磯高校へ。11年より3年間学年主任を務め、14年4月より進路指導部の部長に。担当教科は数学。生徒への指導のテーマは「自立と自律」。手に持つポロシャツの文字「KUROISO PRIDE」は同校野球部監督が考案したキャッチフレーズ。全職員がこの思いを共有している。



進路指導の行事「職業人による講話」。講師は地元企業の副社長。県の研修会で「積極的に社員には海外チャレンジさせる。

失敗してもかまわない」と話されていて、これを生徒に聞かせたいと思った矢口先生。会場の裏口で、その方が出てくるのを待って交渉し、今回の講話を実現したそう。「地域のリーダーを育てるためには地元で活躍する人の話は有効なんです」

## fan message



教育力がある。生徒のいいところを見つけて120%伸ばすし、矢口先生の指導を受けた生徒は自分の言葉で話せるようになる。親睦会を幹事長として盛り上げるなど、職場の雰囲気良くするために頑張っています。硬軟が混ざっているところも魅力です。(黒磯高校 加藤信行先生)